

1. ごあいさつ

総務幹事 北條 洋 (福島県立医大会津医療センター病理診断科 (兼) 同医学部病理病態診断学講座)

第66号では、米どころ会津の初夏の訪れをお知らせしました。あっという間に季節は巡り、当医療センター周囲の黄金色の田んぼでは稲刈りが終了し、短く粉砕された稲わら、もみ殻の焼却に伴う独特の焼却臭と煙が会津盆地に漂っています。窓から見える飯豊(いいで)連峰が白く輝くのも間近です。会員の皆様の地域ではどのような晩秋を迎えていますでしょうか。

第35回日本小児病理研究会学術集会は8月29日

(土)、国立成育医療研究センター 臨床検査部/小児血液・腫瘍研究部 松岡健太郎先生のお世話で同センター 教育研修棟で開催されました。50名を超える皆様に参加をいただき、松岡先生ならびに関係スタッフの皆様の協力により滞りなく終了できましたことに厚く御礼申し上げます。

学術集会の主題3題、一般演題6題は活発な討論が行われました。また、主題Iの「インプリンティング異常症」の教育講演は国立成育医療センター研究所分子内分泌研究部 鏡雅代先生に、主題IIの「胚細胞腫瘍」では「仙骨部奇形腫の診断・治療・予後」(日本赤十字社医療センター小児外科 吉田真理子先生)、「胚細胞腫瘍、最近の知見」(国立成育医療研究センター病理診断科 岩淵英人先生)と充実した内容で、演者の先生には初学者にもわかりやすく解説いただきました。

幹事会、総会では、総務幹事報告に続いて幹事選挙結果報告がなされ、新幹事、新監事、今後2年間の担当幹事が選ばれ承認されました。新幹事は井上健、松岡健太郎、大喜多肇、田中未緒の各先生、担当幹事として総務幹事は北條、庶務担当幹事は大喜多肇、学術担当幹事は岸本広志、広報担当幹事は井上健、監事は柳井広之、竹内真の各先生です。協議事項では、平成26年度決算、平成27年度予算が承認されました。協議事項の第105回日本病理学会総会の日本小児病理研究会・日本病理学会小児腫瘍分類委員会のコンパニオンミーティングは「胚細胞腫瘍の病理と臨床」の内容で、井上健先生(大阪市立総合医療センター 病理診断科)、岩淵英人先生(国立成育医療研究センター病理診断科)と臨床(演者未定)にお話ししていただく予定です。来年の第36回日本小児病理研究会学術集会は小田義久先生(九州大学大学院)(主題は軟部腫瘍)のお世話で、2016年8-9月、福岡市で開催され、第37回日本小児

病理研究会学術集会(2017年)は北條、橋本優子先生(福島県立医大 病理病態診断学)が共催することになりました。さらに、小児腫瘍組織分類委員会の田中祐吉委員長は委員会報告され、特に「小児胚細胞腫瘍・その他の稀少腫瘍アトラス」の進捗状況、中央病理診断委員会・JCCG病理診断委員会の役割、規定、構成について話されました。

第105回日本病理学会総会(仙台市)のコンパニオンミーティングの主題は「小児胚細胞腫瘍」です。JCCG臨床研究としての「胚細胞腫瘍」の計画、中央病理診断委員会における胚細胞腫瘍小委員会の設置、女性生殖器腫瘍新WHO分類(2014)の刊行、分類委員会での「小児胚細胞腫瘍・その他の稀少腫瘍アトラス」の2016年発刊をふまえ、タイムリーで充実した内容となると今から大変楽しみです。会員、非会員の皆様の多数の出席をお願いします。

JCCGの臨床研究はAMED委託研究(厚労省)によりサポートされています。JCCG中央病理診断委員会(中澤温子委員長)には、8つの腫瘍小委員会が設けられ、小児腫瘍分類委員会中央病理診断委員会の専門委員が配置されていますが、次世代の専門病理医を育成するためにオブザーバー制度が設けられています。AMED委託研究の中にはオブザーバー登録者が旅費の支給を受け参加できるものがあります。1年毎の再登録となりますが、今後汗を流してJCCG臨床研究に貢献したいと考えている先生はオブザーバーへの積極的なアプローチをお願いします。

最後にこどもを描いた好きな作品をご覧くださいと思います。夭逝の画家古茂田守介の1948年頃の素描(ペン)「子供」です。モデルは2歳頃の次女杏子さん、「手作りのエプロンをいつも着せられてこの帽子をかぶってました。なつかしい〜い」と杏子さんの話、杏子さんも画家さんです。皆さんも記念になる自画像を親子互いに描き合っ



<h2>2. 幹事会・総会報告</h2>	<h2>3. 幹事選挙報告</h2>
<p>平成27年8月29日国立成育医療研究センターにて日本小児病理研究会幹事会ならびに総会が開催されました。</p> <p>幹事会ならびに総会での主な討議、報告内容は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幹事選挙結果報告（別掲） 2. 会計報告並びに予算案（別掲） 3. 第36回日本小児病理研究会について（九州大学小田義直先生） 4. 第37回日本小児病理研究会について（福島県立医科大学北條洋先生） 	<p>平成27年8月4日（火）に大喜多肇会員、岩淵英人会員および事務局 松岡健太郎の3名にて幹事選挙の開票を行いました。返送された投票用紙は37通。投票数はのべ138票でした（以下、敬称略）。</p> <p>得票数は多い順に井上健、松岡健太郎、大喜多肇、田中水緒、次点 竹内真、柳井広之でした。上位4名が新幹事に選出されました。</p> <p>幹事は岸本宏志、北條洋、藤本純一郎、平戸純子（以上残任期間2年）、井上健、松岡健太郎、大喜多肇、田中水緒（以上残任期間4年）の各会員となります。また、幹事会にて監事として竹内真、柳井広之各会員が選出されました。</p>
<h2>4. 地区集会のお知らせ</h2>	
<p>第74回 関西小児病理研究会 2015年12月26日（土）午後1時30分から 於； 大阪市立総合医療センター（大会議室） 世話人； 大阪市立総合医療センター 病理診断科 井上 健先生</p>	<p>第132回 関東東海地区小児病理カンファレンス 2016年2月6日（土）午前10時30分から 於； 国立成育医療研究センター 教育研修棟1階大講義室 世話人； 国立成育医療研究センター病理診断部 義岡孝子先生 *両研究会とも参加資格は特にありません。小児周産期病理に興味のある方のご参加をお待ちしております。</p>
<h2>5. 幹事だより（4）事務局あれこれ</h2> <p>松岡 健太郎（国立成育医療研究センター 臨床検査部／小児血液・腫瘍研究部）</p>	
<p>日本小児病理研究会の主な事務局業務は、会費徴収、会計、会報作成・発送（年3回）、学術集会のお手伝い、幹事選挙、幹事会の開催などです。最近では日本病理学会学術集会開催時のコンパニオンミーティングのお手伝いもしております。日本小児病理研究会の下院数は90名前後を推移しており、会計規模は年間40万円程度です。各業務をどの程度遂行することができたか、自己採点すると70点のあたりでしょう。結果がすべてといわれてしまえばそれまでなのですが、どれも間違えの許されない業務で、小さなミスはあったかもしれませんが、会員の皆様それぞれのご迷惑をおかけすることなくこれまでやってこれたのはよかったと思っています。</p> <p>事務局として一番よかった思い出は、学術集会で年会費を徴収するため、お店をひろげていたところにある先生がおいでになって、年会費を収めなが</p>	<p>ら、「先生、いつもご苦労様です、先生のおかげで会もまわってます。」と仰っていただいたことでした。後にも先にもその先生のほかにそのような言葉をかけていただいたことはなく、忘れ得ぬ思い出となっております。他の学会、研究会でも事務局、会費徴収などをなさってくださっている方にはいつも敬意を払うようにつとめています。</p> <p>会報につきましては、何とか読んでいただきたいと、会報をDTPソフトを用いて作成し、写真を入れたりしましたがいかがだったでしょうか。私が発行する会報はこれで最後になりますが、今後もぜひ会報には目を通していただきたいと思っております。</p> <p>本年度をもちまして、事務局員を辞めさせていただきます。肩の荷をやっと下ろせるかと思うと、ホッとしております。長い間お世話になり、ありがとうございました。</p>

6. 第35回日本小児病理研究会

第35回日本小児病理研究会が2015年8月29日（土）に国立成育医療研究センター臨床検査部／小児腫瘍・血液研究部松岡健太郎先生のお世話で、同センターにて開催されました。多くの参加者を集め、教育講演1題、シンポジウム2題、主題3題、一般演題6題の講演・発表があり、参加者一同、大いに資するところがありました。

会の終了時には、第36回会長の九州大学病理学教室小田義直先生へ、トーキングスティックの引き渡しが行われました。

7. 平成26年度会計報告ならびに平成27年度予算案

平成26年度会計報告 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)		平成27年度予算案 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)	
収入の部		収入の部	
会費	355,000円	会費	300,000円
前年度繰越金	986,888円	前年度繰越金	987,049円
郵便貯金利息	284円	郵便貯金利息	160円
小計	1,342,172円	小計	1,287,209円
支出の部		支出の部	
第34回学術集会補助	300,864円	第35回学術集会補助	300,144円
会報発送費(62, 63, 64, 65号)	28,782円	会報発送費(66, 67, 68号分)	25,000円
慶弔費	16,633円	ホームページ管理費	54,864円
事務費	8,844円	事務費	15,000円
小計	355,123円	小計	395,008円
次年度繰越金	987,049円	次年度繰越金	892,201円
帳簿等を監査したところ、適正に処理されていると認めます。		コンパニオンミーティング基金残高	420,000円
平成27年8月28日 日本小児病理研究会・監事 柳井 広之			

日本小児病理研究会会報67号 2015年11月30日発行
 編集・発行 日本小児病理研究会事務局
<http://jspp.info/>
 東京都世田谷区大蔵2-10-1

国立成育医療研究センター 病理診断部
 TEL (03)3416-0181 FAX (03)5727-2879
 E-mail matsuoka-k@ncehd.go.jp